

# 湯沢CS通信

令和5年6月16日 第60号  
(発行) 湯沢市教育委員会  
学校教育課 CS担当

市内のすべての学校で一回目の学校運営協議会が終わりました。校長先生の学校運営の基本方針が承認され、それぞれの学校で順調に教育活動が行われていることと思います。ここで一回目の会議で話題になったことを紹介します。

- ・ PTA活動の活性化 (東小・皆瀬小・北中)
- ・ 資源回収の継続 (稲川小・南中)
- ・ 幼・小・中の連携の在り方 (皆瀬小・稲川中)
- ・ 地域とのつながりの深め方 (東小)
- ・ 教職員の多忙化の解消 (皆瀬小)

いずれも解決には学校・家庭・地域の連携・協働が必要と考えます。これらの解決が「心豊かでたくましい子どもの育成」(CSの共通目標)につながるような話し合いや実働になることを期待しています。

また、熟議も計画されています。

- 「読書好きの子どもを育てるために」(湯沢西小)
  - 「稲川の子どもたちに保護者や地域ができること」(稲川小)
  - 「皆瀬の未来を担う生徒へつないでいきたい思い」(皆瀬中)
- 熟議の様子は順次紹介していきます。



二回目以降の学校運営協議会には原則参加させていただく予定です。委員の皆さんに出す案内を私にも届けてくださるようお願いいたします。

今年度新たに委員になられた方から「学校運営協議会委員の役割はどんなことですか。」という問い合わせがありました。改めまして、学校運営協議会委員の役割と心構えを紹介します。

## 〈役割〉

- 家庭・地域と学校をつなぐ役目となり、地域における子どもたちの課題や問題の把握に努める。
- 地域における子どもたちの情報や地域住民の考えや要望等について学校に情報提供をする。
- 学校運営に主体的に参画し、「地域とともにある学校づくり」の中核となって取り組む。

## 〈心構え〉

- 意見や要望を言うのではなく、学校と一緒に考える姿勢でいる (学校へ要望する立場ではない)
- 「応援部隊」として、学校運営を客観的に見る。
- 校長が様々な判断をする際に、校長の決断の後ろ盾となる姿勢でいる。
- 気持ちの部分で委員同士のつながりを大事にし、遠慮のない協議をする。
- CSはあくまでツールとしてとらえ、目的 (学校の教育目標やCSの共通目標の具現化) を理解して協議する。



六月五日(月)に行われた湯沢西小学校の熟議の様子を紹介します。熟議は次のように行われました。  
〈熟議について〉

参加者 学校運営協議会委員 PTA役員 教員 四十名  
テーマ 「読書好きの子どもを育てるために」  
流れ

- ・湯沢西小学校の保護者であり、児童文学作家の鳥美山貴子さん(日本児童文学者協会新人賞を受賞)と松野教頭先生によるテーマについての対談
- ・対談を受けて四人グループで協議
- ・まとめ(参加者一人一人がテーマに対するキーワードを付箋に書いて張り出し、それをもとにしたファシリテーター(佐藤芳一校長先生)によるまとめ)



テーマについて対談する鳥美山貴子さん(左)



対談を真剣に聞いている参加者

対談は松野教頭先生の質問に鳥美山さんが答える形で行われました。「読書好きの子どもを育てるために大人ができることは？」の質問に対して

- ・橋を架けてあげること(身近なところに本を置くこと、図書館と一緒にいくことなど)
  - ・本は親が与えるのではなく、子どもが自分で選ぶことができるようにすること
- という鳥美山さんの回答が印象に残りました。  
参加者が考えたテーマに対するキーワードは次のようなことでした。

- ・親も本を読む
- ・一緒に読む
- ・本に親しむ環境づくり
- ・図書室の活用
- ・おもしろい本に出会うきっかけづくり
- ・環境ときっかけづくり
- ・親のアシスト
- ・読書は入り口
- ・読書は手段の一つ
- ・興味のあることを伸ばす
- など



キーワードを付箋に書き込む参加者

湯沢西小学校の熟議は、地域の人材を有効に活用していたこと、保護者の代表が参加していたこと、参加者が熟議に慣れていたことなどが印象的でした。  
熟議はあくまでも手段です。目的は学校の教育目標「きのうよりきょう きょうよりあすへの ふくらみを」やCSの共通目標「心豊かでたくましい子どもの育成」を具現化することです。参加者の一人一人が熟議を受けて、自分ができることを行動に移すことができるとういことです。